

# GS

No.780  
2016  
11

## ■ 巻頭企画

### 10.7-8 全国協議会を開催

中村新会長が改めて“強いジャグラ”実現への所信を表明  
POD・環境対応の講演、各種表彰式などを実施

## ■ 特別企画

### 未来予測の精度を高め、 印刷業界で生き残る(前編)

— (株)プリプレス・センター 藤田 靖

### 第1次審査課題&採点レポート大公開!

— ジャグラコンテスト第2回 InDesign

## ■ NEWS とお知らせ

### 10.8 日本自費出版フェスティバルを開催

— 日本自費出版文化賞の表彰式も開催

## ■ 連載

### 「温孔知新⑪」

～ジャグラ草創期・謄写印刷全盛期の名人たち～

# C·O·N·T·E·N·T·S

## ● 巻頭企画

2 **10.7-8 全国協議会を開催**  
 中村新会長が改めて“強いジャグラー”実現への所信を表明  
 POD・環境対応の講演、各種表彰式などを実施

## ● 特別企画

18 ミニセミナー抄録  
**未来予測の精度を高め、  
 印刷業界で生き残る(前編)**  
 ——(株)プリプレス・センター 代表取締役 藤田 靖

18 ジャグラーコンテスト第2回 InDesign  
**第1次審査課題&採点レポート大公開!**

## ● NEWSとお知らせ

- 1 本誌Web版をご活用ください
- 20 ジャグラーBBホットニュース
- 26 業界の動き
- 10.8 日本自費出版フェスティバルを開催**  
 ~日本自費出版文化賞の表彰式も開催~

## ● 連載

- 28 「温孔知新⑪」  
 ジャグラー草創期・謄写印刷全盛期の名人たち  
 山形謄写印刷資料館 館長 後藤卓也
- 12 書籍案内
- 15 新年名刺広告大募集
- 20 コラム
- 27 編集後記

## 巻頭言

# 今、中小ジャグラー企業が 生き残るには……



ジャグラー理事・東海地方協議会 会長  
 愛知県支部 松栄印刷(株) **伊藤 政美**

皆様、東海地協会長の伊藤です。

今年に入って、特に市場の低迷による価格低下が続いています。いろいろなビジネスモデルがありますが、従来型のビジネスモデルは大競争が続いています。ネット通販モデルはそろそろ限界にきているのではないかとされていますが、市場としてはまだまだ拡大する様で、すべての印刷物はネット通販で買えるようになるだろうと思います。それは、小人数の印刷会社・デザイン会社等であっても、デザインデータをつくりネット通販に発注すれば、設備を持っている会社にも価格で戦える様になったことを意味します。

では、生き残るために一番重要なことは何か——それはやはり「営業力」ではないかと思えます。売上高を獲得する、「お客様を獲得する力」や「仕事を受注する力」が生き残りの最大の条件だと思います。さらに企業が存続する最大の条件は「黒字決算」を実現する事です。赤字決算では、いずれは財産を喰べ潰して経営が破綻します。

従来型のビジネスモデルは、これからも競争が続いていきます。印刷関連業者の数が減って、需要と供給のバランスが良くなってこない限り、競争は続きます。ですから、これから必要なことは新しいビジネスにチャレンジする「覚悟」ではないでしょうか？

例えば、最近各地にできてきた街づくり会社、フリーペーパー会社、イベント会社などが、印刷物や街おこしグッズなどを創って地域に貢献しており、新しいビジネスモデルの成功事例になっています。ジャグラー会員同士もお互いに手をつなぐことで、新しい活路を拓くことができると思います。是非、一歩踏み込んでの事業継承が必要ではないでしょうか？ いずれにしても、何を始めるにしても、必要なのは「覚悟」し、「運」が我々にくるように努力することだと思います。

事業継承をするための戦略は、人によってさまざまですが、方向が少し違うこともあり、また、全く180度違う場合もあります。いずれも長所・短所を有していることがほとんどでしょうが、知っておかなければならないのは、思った以上に多大な時間・費用が必要とすることもあり、また、戻れないこともあります。

その場合、よりの確な戦略を決断するためには、良い先生に学ぶことが必要ではないでしょうか。個人の能力には限界がありますが、幸い、ジャグラー会員の中には良い先生がたくさんおられ、いろいろな情報入手することができますので、是非、学びの場のひとつとしてジャグラーを活用し、生き残れる様に皆で頑張りましょう。

## 本誌『グラフィックサービス』Web版をご活用ください

本誌は9月号よりこれまでの紙媒体に比べ、Web版(PDF)の提供を開始しています。Web版はジャグラーHPよりダウンロードして、PC/タブレット/スマートフォンなどで閲覧していただく形となります。ダウンロードに際してはID/PWなどは必要なく、誰でも閲覧可能です。現在、紙媒体のGS誌は当月下旬に会員の皆様に発送していますが、Web版はそれより約1週間早い中旬(おおよそ毎月15日前後)に公開しますので、いち早く各種情報入手できると同時に、社内同時閲覧や本文中URLへのリンクなど利便性が増していますので、ぜひご活用方をおすすめします。

**ダウンロードはジャグラーHPより ▶ <http://www.jagra.or.jp/>**

# SCHEDULE

## ジャグラー・スケジュール表

10月	11月	12月
3日 プライバシーマーク現地審査(大阪)	1日 プライバシーマーク現地審査(石川)	2日 教育・技術委員会
4日 プライバシーマーク現地審査(大阪)、東グラ理事会→沖専務	2日 JIPDEC ヒアリング→JIPDEC3名様、中村会長、	3日 ジャグラー文化典岩手大会実行委員会
6日 経営革新委員会、ハイデルベルグ・ジャパン(株)90周年(品川プリンスホテル)→菅野副会長	11日 日印産連ステアリングコミッティ→中村会長、プライバシーマーク現地審査(大分)	7日 プライバシーマーク審査会
7日 理事会(東京ドームホテル)、全国協議会一日目(東京ドームホテル)	13日 日印産連ステアリングコミッティ→中村会長、プライバシーマーク現地審査(大阪)	13日 日印産連ステアリングコミッティ→中村会長、プライバシーマーク現地審査(大阪)
8日 全国協議会二日目(東京ドームホテル)、日本自費出版文化賞表彰式(アルカディア市ヶ谷)	14日 日印産連専務理事連絡会→沖専務、日印産連知財研究会→増田理事	14日 日印産連専務理事連絡会→沖専務、日印産連知財研究会→増田理事、中村耀氏東京都功労者表彰を祝う会(椿山荘)
11日 マーケティング委員会	18日 日印産連専務理事連絡会→沖専務、ジャグラー文化典岩手大会実行委員会(岩手)→中村会長、守田常務、事務局	19日 マーケティング委員会
13日 プライバシーマーク現地審査(宮城)	19日 九州地協幹事会(福岡)→中村会長、守田常務	28日 事務局仕事納め
14日 プライバシーマーク現地審査(宮城)	22日 広報委員会	
18日 広報委員会	24日 プライバシーマーク現地審査(宮城)	
19日 日印産連ステアリングコミッティ→中村会長、プライバシーマーク現地審査(大分)	25日 東グラ理事会(ニッケイビル)、東北地協幹事会(岩手)	
20日 日印産連専務理事連絡会→沖専務、ジャグラー文化典岩手大会実行委員会(岩手)→中村会長、守田常務、事務局	28日 プライバシーマーク現地審査(長野)	
21日 全印工連全国大会(福島)→中村会長、ショーワ会(Hメトロポリタンエドモント)→沖専務	29日 プライバシーマーク現地審査(長野)	
26日 プライバシーマーク審査会、JAGAT 理事会(欠席)、日印産連知財研究会→増田理事		
28日 プライバシーマーク現地審査(岩手)、複写連全国大会(兵庫・有馬)→祝電		



POD最新市場動向を解説した菅野氏

環境対応の自社事例を解説した日経印刷 / 吉村氏

来年の岩手大会をPRする菅原岩手県支部長



年賀状デザインコンテストの表彰：左から中村会長、クイット / 富田氏・永田氏  
タカトーププリントメディア / 久保氏、名古屋モード学園 / 平松氏



第二代インデザインマイスターに輝いた  
日経印刷 / 戸田氏と中村会長

ジャグラは全国協議会を10月7～8日の二日間、東京ドームホテルにて開催した。全国協議会は地協会長・支部長に事業の進捗状況を中間報告するためのもので、一日目は役員改選が6月にあったばかりということもあり、改めて中村耀新会長の所信を確認し、それに基づいたグループディスカッションがあったほか、教育・技術委員会と環境委員会からの提案による発表が行われた。また、二日目は「地域活性化」をテーマにしたビジネスモデルの事例発表と地協・支部報告が行われた。

# 10.7-8 全国協議会を開催

——於 東京ドームホテル

## 中村新会長が改めて“強いジャグラ” 実現への所信を表明 POD・環境対応の講演、各種表彰式などを実施

### 10.7(金) 第一日目

全国協議会は規定により副会長が進行することになっているため、座長に菅野潔副会長が就任。冒頭、中村会長の挨拶に続いて、以下のプログラムにて進行した。

×

#### 講演：POD最新市場動向

協議会は最初に、「POD最新市場動向」と題する講演で幕を開けた。この講演は、「ジャグラ会員の多くはPODを導入しつつあるが、まだまだ有効活用しているには程遠いのが実情ではないか？」という教育・技術委員会の意向により企画されたもの。

講師は菅野孝市氏（業界紙ニュープリンティング株 / 常務取締役）で、PODの市場動向、活用事例の紹介、POD活用は時間や人件費を含めたトータルコストで考えること、情報セキュリティの活用で個人情報を含めたバリエーション印刷にも取り組める等、内容豊富なセミナーは好評であった。

#### 講演：改正労働安全衛生法への対応について

数年前、大阪の校正印刷会社による「胆管癌問題」では、印刷業として同列に見られる風評被害を被った感があるが、「労働安全衛生への取り組み」は以前にも増して感度の高い問題となっていることを踏まえ、環境委員会の提案による講演が行われた。

講師はジャグラ会員の中でも環境対応がしっかりしている日経印刷株の吉村和敏社長と管理本部業務改善支援課の山田一則氏。今回の労働安全衛生法の改正は胆管癌の問題が契機であり、「化学物質を取り扱う全ての事業者が対象」で、具体的にはリスクアセスメントの実施が義務化されたほか、従業員の健康障害防止の措置が必要、という説明がなされ、これに対する同社の具体的な取り組みが説明された。化学物質を取り扱っている会員企業にとっては分かりやすい内容と好評であった。（後日ジャグラBBで放映予定）

#### 会長所信表明とグループディスカッション

教育・技術委員会の提案で、中村新会長の所信表明を改めて伺い、それを受けて支部長や理事がジャグラの今後に

ついて意見交換するグループディスカッションが開催された。（会長所信表明4頁、グループディスカッション6頁参照）

#### 年賀状デザインコンテストの表彰

今年で4回目となる年賀状デザインコンテストで会長賞を受賞した3氏が表彰された。最初に青木滋経営革新委員長より、応募総数602点より会長賞をはじめとする総数100点を選考した旨、報告があり、その後、以下の3氏に表彰状と副賞の賞金が授与された。

##### ●カラー部門

（有）クイット（愛知） 永田里美氏

##### ●モノクロ部門

（株）タカトーププリントメディア（広島） 久保綾子氏

##### ●学生部門

（学法）名古屋モード学園 平松史花氏

#### ジャグラコンテスト第2回InDesignの表彰

冒頭、笹岡誠ジャグラコンテスト推進部会長より経緯が報告され、第一次・第二次審査ともに1位の成績をおさめ

た日経印刷株の戸田大作氏に、表彰状と盾のほか、「インデザインマイスター」の称号が贈られた。

##### ●第二代 InDesign マイスター

日経印刷株（東京千代田） 戸田大作氏

#### ジャグラ文化典岩手大会のPR

来年6月に岩手県盛岡市にて開催されるジャグラ文化典岩手大会について、菅原正行実行委員長（岩手県支部長）より参加要請のPRがあった。

##### ●日程と場所（予定）

日にち	行事 / 場所・備考
9日(金)	ウェルカムゴルフ大会 / メイプルカントリークラブ
9日(金)	ウェルカムパーティ / ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング
10日(土)	定時総会・式典・懇親会 / ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング
11日(日)	日帰りツアー / 宮古・三陸地方（太平洋側）
11日(日)～12日(月)	宿泊ツアー / 宮古・三陸～花巻・平泉・江刺地方

×

最後に、佐藤順副会長の挨拶により一日目を終了し、その後、懇親会が開催された。

**本**日は全国から役員、支部長の皆さんにご参加いただきありがとうございますので、私なりに考える「これからのジャグラ」について説明させていただきます。

まず、私は会長就任時に“強いジャグラ”という言葉掲げました。ジャグラ自体の運営状況については、吉岡前会長のご努力により、将来的に継続していく目処が立ちました。その上で、印刷業界を取り巻く環境が大きく変わるなか、「どのように全国ジャグラ会員が生き残っていくのか」を考えることが新しい執行部に課せられた使命だと思いました。この“強いジャグラ”という言葉は単なる標榜ではありません。“強いジャグラ”とは、「会員一社一社が経営基盤を強化することで実現する次世代のジャグラの姿」を現しています。

これまで歴代会長のもと、役員、事業委員の皆さんの努力で、様々な有益事業が展開されてきましたが、改めて今

なります。こうした負のスパイラルを抜けるのは、新たな事業だけでなく、情報の受発信、会員とのコミュニケーションの強化が必要です。

具体的には、地協総会などで各支部から支部員の現況を話していただき、その声を本部にも共有していただきたい。また、本部としては地協会長や役員の方が、ジャグラの事業を伝えるためのお手伝いを今まで以上に果たしていきます。可能であれば地協単位でメーリングリストまたは連絡網を作成し、“ジャグラニュース”として、FAX なり、メールを定期的に流していただきたい。

こうしてジャグラ本部、地協、支部、会員が相互にしっかりと情報をやり取りできる土壌を作り上げて支部を元気にした上で、既存事業と新たな事業を推進していきます。支部長の皆さんには苦労をおかけしますが、踏ん張りどころだと思って一緒に頑張っていたいただきたい。

所 | 信 | 表 | 明 |

## “強いジャグラ”の実現に向けて

ジャグラ会長 中村 耀

の時代に合ったジャグラという組織を見直すことが必要だと思い、今期から「ジャグラ運営基盤戦略会議」を設けました。

ジャグラの中で一番大事なのは支部です。そのことを念頭に置いて、会員目線で、ジャグラの活動を全国の会員、一社一社にしっかりと届け、そして全国からの声を本部にいただくための情報共有と支部、地協との連携強化が重要だと私は考えます。その要になるのが地協です。

90年代のピーク時に比べ、会員数が半減したジャグラにおいて、支部活動が困難な支部も出てきました。私自身、長年、支部長を経験する中で、支部員一人ひとりとのコミュニケーションの難しさ、そして大切さを痛感しています。コミュニケーションのきっかけとなる大切な支部活動が停滞していけば、ジャグラの事業に触れる機会もなくなり、結果として退会へとつながり、ますます支部活動が困難に

**現**在、ジャグラの事業の柱となっているのは、個人情報保護、年賀状デザインやジャグラ作品展、InDesgin コンテスト、自費出版文化賞といったコンテスト事業、そしてジャグラ BB、教育・技術関連事業などが挙げられます。これらの事業は今後も強力に推進していかなければなりません。

個人情報保護は企業に必須の項目ですし、コンテスト事業は会員の皆さんに直接的なメリットを付与するものです。例えば年賀状デザインは、作品集が年賀状受注の差別化ツールになりますし、ジャグラ作品展で受賞された会員は地域紙などにも取り上げられ、顧客に自社の強みを PR するネタになります。そして InDesgin コンテストは、参加することが社員教育に繋がる特徴を持っています。実際、前回参加されなかった会員のなかには、「採点結果をフィードバックしてもらえらるなら」と、今回参加された方もいらっ

しゃいます。

こちらから発信している情報を必要としていながらも、なかなか日々の仕事が大変で受け取りきれない会員もいることを改めて認識しなければなりません。ジャグラ BB はすでに皆さんのお仕事に役立つ情報がたくさんあります。今一度、皆さんにもジャグラ BB を活用するメリットを各支部の会員、一人ひとりにお話しただけでないでしょうか。

**本**部、地協、支部の対話がより良いジャグラを作り、皆さんに役立つ情報をさらに発信する拠点になると考えています。

これから地域に必要とされる会社であり続けるための CSR、その一つの柱である災害時における BCP、そして職場環境を整備するためのワークライフ・バランスは取り

- ①組織改革による本部・地協・支部の連携強化で、情報の受発信を円滑にかつタイムリーにしっかり伝えていく
- ②個人情報保護、コンテスト事業、ジャグラ BB について、より一層活性化させる
- ③BCP、ワークライフ・バランスによる各社の働く環境を整備
- ④デジタル印刷ビジネスの研究で新たな収益源の創出を考える
- ⑤これらの事業を総合的に活用することで、各社の経営基盤の強化を図り、“強いジャグラ”を実現する

組んでいきたいと思っています。ご承知の通り、日本は少子高齢化が進み、労働人口の減少が心配されています。その中で中小企業が優秀な人材を確保することは非常に困難です。しかし、会社を続けていくには、若者の確保が必須です。また、今働いている社員も親の介護や子育ての課題がこれまで以上に負担となります。ワークライフ・バランスは若者や女性の雇用だけではなく、長く会社を支えてくれている社員に働き続けてもらうため、高齢者の雇用についても私たちは考えていかなければなりません。その負荷を少しでも軽減することも企業の役割であると同時に、社員が働きやすい環境を作ることが会社にとって多くのメリットを提供することがわかっています。東京グラフィックスでは昨年、ワークライフ・バランスを実践するための冊子をまとめています。これをベースに、ジャグラ会員企業の働く環境の変革、そして経営基盤の強化を推進したい

と思っています。

**加**えて、現在のジャグラ会員に必要なデジタル印刷ビジネスの研究にも着手していきます。先ほど、ニュープリンティング社・菅野さんの講演で聞いた通り、ジャグラ会員の主要事業領域でデジタル印刷へのシフトが進んでいます。その一方で、デジタル印刷機をうまく使えないという声も耳にしています。既存の仕事を単にデジタル印刷に置き換えただけで収益は上がらないということです。

これまでのようにどこかにある仕事を取りに行くのではなく、これからは自分たちの手で仕事を生み出していかなければなりません。仕事を創り出すツールとしてもデジタル印刷の期待が高まっています。ジャグラとしては、オフセットと違う形での収益の確保といった会員共通の課題に対し、会員企業の規模の目線でビジネスモデルを研究し、課題解決のヒントを提供したいと考えています。

**色**々とお話ししてまいりましたが、まとめると、先ず組織改革による本部、地協、支部の連携強化で情報の受発信を円滑にかつタイムリーにしっかり伝えていく流れを作ります。そして既存の個人情報

保護、コンテスト事業、ジャグラ BB について、皆さんの意見を頂戴しながら、より一層活性化していきます。加えて、BCP、ワークライフ・バランスによる各社の働く環境を整備し、デジタル印刷ビジネスの研究で新たな収益源の創出を考えていこうではありませんか。そしてこれらの事業を総合的に活用することで、各社の経営基盤の強化を図り、“強いジャグラ”の実現を目指します。

まだまだ取り組みへの具体的なプランが不足していることは重々承知しておりますが、是非皆さんのお知恵も貸していただきたいというのが私からのお願いです。

最後になりますが、皆さん、毎日一回、自分の会社が良くなること、強くなることを『想像』しましょう。それがきっと『創造』に繋がるはずですよ。

ご清聴ありがとうございました。

## グループディスカッション



中村会長の所信表明を受けて、「中村新体制にお願いすること、期待すること」をテーマに8グループに分かれてディスカッションが行われた。なお、グループリーダーは副会長・地協会長が務めた。結果発表は以下のとおり。

×

### ●第1グループ（発表者：中村盟）

- ①印刷機資材購入を検討する際、インターネットを使えばさまざまな情報は得られるが、その真偽を確かめられる場がない。Facebook等にジャグラー会員同士がコミュニケーションを取れる場があるものの、ジャグラー本部運営の相談サイトなどがあると良い。
- ②デザイン盗作など、顧客とのトラブルが発生した際、事務局に相談できるとありがたい。事務局で対応できない場合は、専門家を紹介してもらいたい。
- ③ジャグラーBBで配信するセミナー番組は20分程度にまとめてもらいたい。20分であれば支部会などで観るこ



- とができる。
- 第2グループ（発表者：佐野修一）
    - ①ジャグラーを今の時代に合った団体にしていく必要がある。
    - ②本部と会員をつなぐ絆を強化する。
    - ③地協単位で情報発信をする。
    - ④プライバシーマーク、年賀状デザインコンテスト、ジャグラーコンテスト InDesignなどの事業は今後も推進していく。
    - ⑤今回のようなグループディスカッションを年1回ではなく、年2回開催してはどうか。
    - ⑥今までジャグラーは行政とは距離を置いて活動していたが、今後は行政とのタイアップも必要。



### ●第3グループ（発表者：尾形文貴）

- ①支部と本部の連携を強化し、会員に有益な情報を流し続けて欲しい。
- ②若手の育成が今後最大の課題になる。
- ③会議次第と議事録はジャグラーホームページ上にアップし、誰でも閲覧できるようにして欲しい。また、可能であれば各県支部の議事録も見られるようにして欲しい。
- ④若い世代を中心にSPACE-21に期待したい。
- ⑤全国大会を開催すると支部が活性化するので、ぜひ積極的に取り組むべき。次期開催の岩手県支部には頑張ってもらいたい。



### ●第4グループ（発表者：笹岡誠）

- ①官公需も期待できず商売は暗い状況だが、各県支部とも

- 年6、7件のイベントをやっており、出席率も50%を超えている。しかし、この状況はあと何年続くか？
- ②先行き不透明な支部活性化のプレークスルーポイントはSPACE-21にある。事例として、東京でも若手組織「FACE」から5社ほどジャグラーに入会した。若手組織との連携を強化し、ジャグラー入会へとつなげていけるかが今後の鍵になってくる。



### ●第5グループ（発表者：松下忠）

- ①機関誌を充実させないと啓蒙にならない。技術や経営に力点が置かれた中身の濃い情報が欲しい。
- ②ホームページはリアルタイムでお知らせする意図があるが、ジャグラーホームページは内容が古い。もっと実用的に改良して欲しい。
- ③ジャグラーは雰囲気良く、いい団体だが、懇親が主体で「会社を良くする」という視点が欠けている。
- ④東京と地方の格差を理解したうえで、強い組織になるような情報を発信してもらいたい。



### ●第6グループ（発表者：谷川聡）

- ①各支部の会員拡大や後継者問題に悩む仲間がたくさんいる。それらの悩み解決に役立つ情報や指導が欲しい。
- ②官公庁入札や補助金の情報をジャグラー本部からタイムリーに届けてもらいたい。さらに、自



- 分から情報を取りにいかずとも自動的に本部から情報が流れてくる仕組みがあれば理想的。
- ③ジャグラー自体の認知度が低く、地元ではほとんど知られてない。団体としての認知度や信用度が上がればメリットが増える。

### ●第7グループ（発表者：齋藤秀勝）

- ①ジャグラーにはいろいろな業種の会員がいるもの、お互いのことを知らない。もっとコミュニケーションをとって仲間のことを知る必要がある。
- ②隣県支部主催のセミナー情報を知りたい。支部でセミナーを独自開催することが難しい場合、隣県支部セミナーに相乗りできるとありがたい。
- ③ジャグラーBBは他団体にはないジャグラーの資産。もっと活用すべきだが、そのためにはコンテンツの整理や棚卸が必要。また、新入社員向け番組は、新人教育プログラムとしてDVD化してはどうか。



### ●第8グループ（発表者：宮本誠）

- ①東京の成功事例はもっと地方に発信すべき。
- ②ジャグラーはほかの印刷団体より会員間の仲がいい。
- ③ジャグラーホームページの刷新を希望する。ホームページがポータルとなり、支部情報、ジャグラーBB情報などが入手できるようにして欲しい。



（文責：事務局）

## 10.8(土) 第二日目

二日目は座長に岩下登副会長が就任し、地域活性化のビジネスモデルの事例発表、地協・支部からの現況報告などが行われた。



地域活性化ビジネスモデルの事例発表を行った  
ニシキプリント / 宮崎氏、カミヤマ / 神山氏、ドウ・プラン / 笹岡氏、宮城県支部 / 大橋氏、プリプレス・センター / 藤田氏

## 地域活性化ビジネスモデルの事例紹介

中村新会長の意向に基づく企画で、「強いジャグラーにするためには、地域の活性化が不可欠」であるとの認識から、「地域活性化」をテーマにしたビジネスモデルの事例発表が下記5社により行われた。

### ●発表社

- ①(株)ニシキプリント（広島）
- ②(株)カミヤマ（愛知）
- ③(有)ドウ・プラン（東京城西）
- ④宮城県支部・震災復興支援プロジェクト（宮城）
- ⑤(株)プリプレス・センター（北海道）

※発表時間は①～④が10分、⑤が30分

この事例発表については、本誌「グラフィックサービス」  
およびジャグラーBBにて紹介する予定です。

本号18頁から⑤プリプレス・センターさんの事例を掲載しています。併せてご覧下さい。

## 地協&支部報告・事業報告

続いて、地協&支部より現況報告が行われた。

### ●北海道（報告者：柳田道）

6月の文化典北海道大会に全力を注いだ。北海道は広いので、会員が一堂に会して打ち合わせをすることは難しく、主にメールで連絡を取り合いながら進めたが、大会当日は協力し合い、無事成功させることができた。参加者の皆様には大変感謝している。

ジャグラーを含め、どの団体にも所属していない印刷会社が相当数いると感じている。そのようなアウトサイダーにどうやってジャグラーの魅力を伝えていけるかが課題。

### ●東北（報告者：熊谷正司）

来年岩手で全国総会が開かれるため、一丸となって成功



に導きたい。

宮城県支部は「ひまわりプロジェクト」の継続をはじめ、9月にボウリング大会を実施、11月に芋煮会を予定。また、毎年1月に新年会を開いている。

岩手県支部は来年の大会開催に向け実行委員会を発足。参加者数最低250名を目指し、着々と準備を進めている。

秋田県支部は会員増強活動の真っ最中。会員数が5社まで落ち込んだ時期があったが、第一次増強、第二次増強運動の結果、16社まで増やすことができた。

青森県支部は現在1社だが、2年後を目途に増強運動の予定。

福島県支部は毎年MUD（メディアユニバーサルデザイン検定）に毎年支部から1名あたり1万円の補助金を出している。また、今年郡山で開催される印刷工業組合の全国大会を全面的にバックアップしている。

山形県支部は2社増強したが、県内では印刷会社3社が廃業し、厳しい状況が続いている。印刷工業組合でも会員が減少傾向にある。

#### ●関東（報告者：樋貝浩久）

神奈川県支部は7月に支部総会を行った。11月にJapan Colorと環境のセミナーを開催予定。

茨城県支部は取引業者を交えたレクリエーションを実施して活気をつけたい。8月にビアガーデンでのバーベキュー大会実施、10月に経営者主体の研修会を予定。来年新年会は温泉地での開催を予定している。

長野県支部は従業員のキャリアアップを図るための補助金を申請している会員、育児や介護支援のために就業規則を改定した会員が増えつつある。また、官公庁の小ロット印刷の入札に大企業や異業種が応札するケースが増えてき

ている。

千葉県支部はゴルフ大会、麻雀大会、釣り大会と親睦中心で活動。その他、工場見学の実施を予定。12月の忘年会ではセミナーを予定している。

山梨県支部は昨年東京三多摩支部と合同忘年会を行った。また、来年9月に地協総会が石和温泉郷で開かれるため、その準備を進めている。

現状、関東地協の各県支部長が集まるのは年2～3回だが、今後は集まる機会をもっと増やしたい。その際、各県支部の青年部から1名を連れてきてもらい、次世代の会の発掘につなげていきたい。

3年後の関東での全国総会は栃木県での開催を予定。

#### ●東京（報告者：菅野潔）

10支部あったが9支部に減り、会員数は308社。最盛期から半減している。まずは300社を下回らないよう、増強につとめたい。

昨年の東京大会は、以前開催していた「グラフィックスフェア」以来、ひとつのものを皆で作るいい機会となった。

教育委員会主催のセミナーは、参加者のすそ野を広げるため、健康セミナーなど幅広いテーマを取り上げている。その甲斐あって、今まで活動に参加しなかった会員が顔を出してくれるようになった。

公益法人の監査により、指摘事項の改善が課題となった。

#### ●北陸（報告者：高橋広好）

石川県支部は異業種が入会して微増、その他支部は会員数が現状維持もしくは減少している。

新潟は年4～5回例会を開催しているが、参加メンバーが固定化している。また、来年新年会は、印刷工業組合と

共同開催することになった。支部活性化につなげたい。

11月に石川県で開催されるSPACE-21の総会に協力している。

#### ●東海（報告者：伊藤政美、神山明彦）

愛知県支部は「明るく元気なジャグラー愛知」を活動目標に掲げている。また、2年間で20社の会員増強を目標に頑張っている。また、MUDセミナー、ゴルフ大会を開催。また、各地区主催研修会、いちご狩り、新年会などを予定している。

愛知県の某出版社から印刷業者の名簿を入手し、非会員約800社にジャグラー入会のDMを配布する。

愛知県では商店街や街づくりを対象とした補助金があり、補助金事業の一環でクーポン券やチラシの制作・印刷が発生することがある。地元でそういった補助金がないか調べてみることをお勧めする。

#### ●近畿（報告者：山本耕司）

経営者は孤独な存在。経営者同士が集まり、お互いの悩みを共有できる場が組合だと考える。ジャグラーは他団体よりその意識が強い。

近畿では年6回幹事会が開かれている。今までは大阪で開催していたが、今年は和歌山県支部が1社から3社へ増強したこともあり、和歌山で開催した。

勉強会の開催も大事だが、勉強会に参加するにはその前段として親睦が必要。まずは会員同士が仲良くすることが重要と考え活動している。

#### ●中国（報告者：宮崎真）

理事会は各県持ち回りで開催している。集まる機会を増やし、会員増強に向けて取り組みたい。

各県支部が会員数を減らさないよう、努力している。

広島県支部では、Pマークや年賀状、InDesign コンテ

ストなどの事業を提示することで、2社の増強に成功した。このように、会員増強には説明しやすいメリットとなる事業が必要。

BCPやリスクアセスメントなど小規模事業所が組みづらい課題をジャグラーの事業の柱にすることで、ジャグラー入会PRがしやすくなる。

#### ●四国（報告者：中越忠男）

高知県支部は8社から16社に増強した。その際、まずは利益を出せる会社になろうと声をあげた。

香川県支部は各県支部の模範となるような活動をしている。“ジャグラーは印刷団体の中で唯一会員数が増えている”、そうマスコミで取り上げられるような元気のある組織にしていきたい。

異業種の会員も入会しているが、異業種のビジネスモデルは時代の流れを読むうえで非常に参考になる。

#### ●九州（報告者：松永英明）

各県支部は定例会、親睦行事で絆を深め合っている。支部でセミナー、勉強会をしたいと思ってもなかなか開催は難しい。地協単位でも距離の問題で難しい部分があり、何か打開策はないかと考えている。

再来年の全国大会は福岡で開催することが決定した。これを起爆剤に地協活性化につなげたい。また、いつか必ず熊本で開催したい。

ジャグラーコンテストの九州からの参加者が少なかった。もっと事業に貢献したい。

×

事業進捗状況については資料配布をもって、報告に代えた（下記参照）。最後に、菅野潔副会長が閉会の挨拶をして全国協議会を終了した。

## 事業報告（主として北海道総会以降の動き）

### ■運営基盤戦略会議

- 1) 7月29日に第一回委員会を開催。新設委員会なので、今年度の課題について話し合った。次回はSPACE-21全国協議会に合わせて11月13日に石川県で開催する。
- 2) 公益目的支出財産額の平成27年度推移について、総会の承認を得たので、内閣府に状況を報告した。

### 〔総務〕

- 1) 財政は、おおむね予算通りの執行となっている。
- 2) ニッケイビルについては3階が空室になっているが、

空室期間が長引くなら入居対策を検討する。

### ■組織拡大

- 1) 平成28年9月末の会員数は866社となっている。

### ■広報

- 1) 毎月、委員会（編集会議）を開催し、定期発行に努めている。
- 2) 今年度より、組織拡大部会・田中秀樹委員（東京城東）に編集会議に参加してもらい、会員拡大に向けた情報発信をすることになっている。

## ■教育・技術 / ジャグラ BB

### ●教育・技術

1) PODの研究：熊谷副会長より、PODの研究を行う業界団体が無い。今後、さらに活用が進むPODについて、ジャグラとして検討する事が急務との提言があり、委員会で取り組むことになった。先ず、10月の全国協議会でPODセミナーを実施して、その後、どのようなアウトプットを目指すのか検討することになった。

### 2) 「プロフェッショナルDTP & Web教室」の運営

定期コースの他、日程外講習、講師派遣、ミニセミナーなどを実施した。また、定期的にスクールの「コースガイド」を制作し、機関誌に同封している。

### ●ジャグラコンテスト / 作品展

1) ジャグラコンテスト第2回 InDesign を実施し、応募者の目標300名に対し、214名の応募があった。受験者へは総合得点と順位、採点項目と採点基準値詳細、各問の得点を視覚化したレーダーチャートに掲載したレポート、管理者・経営者向けに会社ごとの受験者の順位と、企業の強み弱みがわかるポジショニングマップを掲載した資料を添付した。第2次審査の実技試験は9月10日ジャグラ本部DTPスクールで行われ、第二代インデザインマイスターを決定した。(本誌既報)

2) 平成28年度ジャグラ作品は、前年度と同スケジュールでの実施を予定している。

### ●ジャグラ BB

1) 4月1日～7月15日で18本の番組を配信した。主なものは以下のとおり

① JaGra ニュース Vol.376～384

② 文化典北海道大会 PR の TOP 動画

③ BCP 特別セミナー 2016 「東京文久堂のBCP実践」

④ ジャグラコンテスト第1回 InDesign

「第1次審査課題解説番組」

⑤ 知っておきたい特殊印刷 / 加工

「製袋加工」上巻・下巻

⑥ 企業ルポ No.24 「やまかつ(株) (大阪府大阪市)」

⑦ シリーズ経営と環境 日印産連 環境優良工場表彰

「日本ハイコム(株) (長野県) 訪問記」

⑧ ジャグラ BB10周年記念動画

「ジャグリストの輪」

2) 今後の番組予定：作品展大臣賞受賞者インタビュー、上製本と特殊製本セミナー、歩き方と座り姿勢セミナー

3) (株)ニシキプリントアンケート：宮崎委員長より、自社の社員にジャグラ BB を視聴させて実施したアンケート

の説明を受けた。ジャグラ BB でどんな番組を見たか、今後どんな番組を見たいか、改善したほうが良い点などまとめてあり、今後のジャグラ BB 運営の参考にする。

4) これまで番組紹介リーフレット「HotNews」を隔月で発行し、機関誌と一緒に発送していたが、今年度からは毎月、機関誌本文に掲載することにした。また、今後はメルマガによる告知、社員のメールアドレス収集などを検討する。

### 5) 10周年企画

① 記念番組「ジャグリストの輪」：ジャグラ BB の10周年企画として全国の地協や支部から寄せられた動画を編集した記念番組を制作した。

② イヤホン配布事業：ジャグラ BB 視聴を促進するため、イヤホンを制作し北海道大会で配布、機関誌7月号に同封した。

### 6) ジャグラ BB サイトリニューアル

① スマートフォン対応、運用費削減、サーバ容量不足などを解消するべくサイトリニューアルを実施する。大宮商會とJストリームの2社からプレゼンを受け、大宮商會を委託先として決めた。リニューアルオープンは2017年4月の予定。

### ■経営革新

1) 第4回目となる年賀状デザインコンテストを実施し、応募総数602点より会長賞をはじめとする総数100点を選出。入賞作品で見本帳を作成し、会員企業の年賀状商戦に役立ててもらっている。(本誌既報) なお、募集ジャンルについて、世界遺産の応募が少なかったため検討中。また、ダウンロードの開始時期を2週間早めることになった。

2) 助成金関連事業：会員企業に対し、助成金の種類、助成金の活用事例、助成金申請書作成フォローなど、助成金に関する情報提供および獲得するための支援策を検討する。実際に会員がどのような助成金を獲得したのか、事例を集めるため6月にアンケートを実施した。結果3社から回答があった。どのようにするのか検討していく。

### ■CSR (BCP)

BCP委員会からCSR (BCP) 部会に変更した。

### ■市場開拓・マーケティング

1) 8月31日に第一回委員会を開催、今年度の活動内容について検討した。第二回委員会を10月11日に開催する予定。

### ■環境

1) 環境優良工場表彰の件：日印産連主催・第15回印刷

産業環境優良工場表彰の一次審査に16社が応募(うち近畿が10社)し、あさひ高速印刷(株) (大阪) が会長賞、(株)プリプレス・センター (北海道) が奨励賞を受賞した。(本誌既報) 次回(第16回)は12月1日より募集が開始されるが、今年度と同様16社の申請を目標とする。

2) グリーンプリンティング認定制度の普及：同制度について、日印産連はガイドラインの見直しを実施した。新ガイドランをもとに「ジャグラ版GP取得の手順」を作成した。現在、ジャグラの取得企業数は10社(他団体も含め全体では359社)。11月に日印産連より新ガイドラインの冊子が発行されるので、それを使用してセミナー開催などを検討する。

3) リスクアセスメントセミナーの開催：平成24年に大阪の校正印刷会社で発生した胆管癌をきっかけに、平成28年6月1日より労働安全衛生法施工令別表第9に掲げる640の化学物質について、それらを取り扱うすべての事業所でそれらを扱う際のリスクアセスメントを実施することが義務付けられた。この義務化に対応するため、10月の全国協議会で環境に関するセミナーを実施する。(本号参照)

4) 環境委員会による企業ルポ：毎年、環境対応に取り組む企業を訪問し、インタビューを実施している。今年は平成27年に奨励賞を受賞した昭栄印刷(株) (新潟県) を11月18日(金)に訪問する。

5) その他、5Sポスターなど、啓蒙掲示物を検討する。

### ■個人情報保護

1) プライバシーマークの普及：最近の付与決定数(社)は下記のとおり。

プライバシーマーク審査会	新規	更新	合併
平成28年5月18日	1	11	1
平成28年7月5日	2	8	0
平成28年9月14日	0	20	0

2) 個人情報保護の推進：今年度は、特定個人情報(マイナンバー)制度や個人情報保護法改正等について、さらに普及を図りたい。

### ■SPACE-21

1) 正副代表幹事会議：7月22日に正副代表幹事会議を大阪府のあさひ高速印刷(株)にて開催。今期の活動方針について話し合った。同社の会社見学も実施。(本誌既報)

2) 幹事会：9月2日に幹事会を開催した。ここ数年、夏の幹事会は地方で開催することとしており、今年より幹事に就任した熊谷健司氏(株)くまがい印刷の地元秋田県で開催した。同社会社見学も実施。幹事会の後、秋田

県支部の取り計らいで懇親会が開催され、交流を深めた。

3) 全国協議会：11月12日、SPACE-21全国協議会石川大会を予定している。テーマは「魅せるブランドの作り方」。金沢21世紀美術館館長の秋元雄史氏、人が集まるTシャツブランドの創造者、(有)チャンネルアッシュ代表の越原裕幹氏による講演を予定している。運営委員長は平田大輔氏(新潟県)、実行委員長は越原寿朗氏(石川県)。

5) マーケティング委員会との連携：同委員会にSPACE-21として委員を派遣する。

6) 平成29年2月4日に(株)TOP印刷の会社見学会+交流会を予定している。

### ■日印産連

1) 社会的責任報告書：日印産連では社会的責任報告書を作成し、配布している(本誌既報)。CSRの観点より、毎年継続する。

2) じゃばにうむサイトの開設：日印産連では、印刷会社のための地域情報コミュニケーションサイト「じゃばにうむ」を作成、印刷業界の情報発信を推進している。  
[https://www.jfpi.or.jp/topics\\_detail6/id=184](https://www.jfpi.or.jp/topics_detail6/id=184)

3) VOC警報器の普及：VOCが課題となっているので、オフセット印刷工場用VOC警報器XH-981G(GP資機材認定品/新コスモス電機(株)製)の普及を図っている。



<https://www.new-cosmos.co.jp/product/1129/>

以上

## ■全国協議会出席者

会 長 中村耀  
副 会 長 熊谷正司、樋貝浩久、菅野潔、佐藤順、岩下登、池邊寛  
専務理事 沖敬三  
常務理事 守田輝夫  
理 事 柳田道、大橋邦弘、尾形文貴、岡澤誠、野田晃司、早坂淳、増田光仁、齋藤秀勝、青木滋、中村盟、吉岡新、笹岡誠、原田大輔、伊藤政美、谷川聡、山本耕司、佐藤元、宮崎真、中越忠男  
監 事 山崎泰、池上晴英  
支 部 長 渡辺辰美、渡辺啓三、菅原正行、熊谷晴樹、松原巧、後藤卓也、長瀬喜一、宮本誠、中島博、(尾形文貴)、(岡澤誠)、(樋貝浩久)、佐野修一、清水隆司、

中田逸郎、(増田光仁)、(中村盟)、小林佳之、大内靖、(原田大輔)、高橋広好、花岡清志、黒澤康憲、水島顕治、八木伴則、神山明彦、竹田正司、高屋伸啓、岡達也、岸徹(代理)、松下忠、土師健嗣、門田高明、田中泰史、山中克彦、辻紘一、石井謙二、高光協三、(池邊寛)、松永英明(括弧付きは理事兼任)

顧問相談役参与 添田隆男

〔欠席者〕

理 事 なし

支 部 長 茨城県、埼玉県、東京(城西、三多摩)、奈良県、鳥取県、高知県、宮崎県、沖縄県

## ■会議の次第

省略(本誌記事参照)

# BOOK

## グラフィック社

### デザインのひきだし 29 『和紙』

「和紙」の徹底特集! 種類紹介から印刷加工まで

グラフィックス社は、このほど「デザインのひきだし」の第29弾として、表紙&本文、全頁を和紙に印刷した『和紙』を発刊した。

×

## ■内容

第29号の特集は、「和紙～日本全国の和紙を知れば、紙ものづくりの幅がグンと広がる」で、東京オリンピック・インバウンド需要と、これから更に注目を集める和紙についての徹底特集となっている。日本には美しく風合いのいい和紙がたくさんあるが、それをうまく使いこなせていない人がほとんど。そこで実物綴じ込みとともに、印刷加工

に使える和紙を中心にドーンと紹介する永久保存版の1冊となっている。

また、「オリジナル和紙2種類」「オリジナル「てまり」和紙」「耳付き風和紙ラベル」「和紙活版刷りの掛紙」「手漉き和紙にオフセット印刷」「和紙サンプル40種類以上」が、特別付録としてついてくる。

■発行：2016年10月

■仕様：B5判、並製、144頁オール4C

■定価：2000円(税別)

■ISBN：978-4-7661-2910-6

■購入：お近くの書店にてお求め下さい



## 公益社団法人 日本印刷技術協会

### 『デジタル印刷レポート 2016-2017』

JAGAT(公益社団法人日本印刷技術協会)は、このほど2013年から毎年刊行している『デジタル印刷レポート』第4弾を発刊した。

×

## ■内容

1) drupa2016をJAGAT独自に総括。  
2) デジタル印刷機の総覧。現在発売されている各メーカーのフラッグシップ機を中心に42台のデジタル印刷機の

総覧を掲載。

3) 新たなビジネスモデル構築に取り組む11社のユーザー事例を紹介。

■発行：9月30日

■仕様：A4判、86頁

■定価：2800円(税別)

■購入：同協会HPにて

[https://www.jagat.or.jp/digital\\_insatsu\\_report2016-2017](https://www.jagat.or.jp/digital_insatsu_report2016-2017)



# 本誌1月号 新年名刺広告大募集 申込締切12.9<sup>金</sup>

ジャグラの機関誌『グラフィックサービス』では、1月号誌上において恒例の新年名刺広告を実施します。  
 なお、地協・支部よりの出稿につきましては、掲載料金が割引となりますので、ぜひご利用ください。

◎掲載料金

1コマ/縦組 60×42ミリ ¥ 8,000 (税込¥ 8,640) →支部・地協 ¥ 5,000 (税込¥ 5,400)  
 2コマ/横組 60×87ミリ ¥13,000 (税込¥14,040) →支部・地協 ¥10,000 (税込¥10,800)

◎申込方法 本紙に必要事項をご記入の上、下記宛ファクス(又は郵送)してください。



グラフィックサービス(株)  代表取締役社長 <b>日本太郎</b>  〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階 TEL 03(3667)2271 FAX 03(3661)9006	<b>標準パターン見本</b>	グラフィックサービス(株)  代表取締役社長 <b>日本太郎</b>  〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階 TEL 03(3667)2271 FAX 03(3661)9006
--	-----------------	--

## 「グラフィックサービス」新春名刺広告申込書

申込日 2016年 月 日

社名	フリガナ	担当者名	フリガナ
住所	〒		
Tel	Fax	E-mail	
体裁	<input type="checkbox"/> 1コマ <input type="checkbox"/> 前年通り (既出稿者)    ←修正ある場合は前回版下に赤字を入れ、貼付してください <input type="checkbox"/> 2コマ <input type="checkbox"/> 標準パターンでOK (新規出稿)    ←新規申込みの場合は、下記枠内に原稿をご記入ください <input type="checkbox"/> 版下データ支給 (独自デザイン)    ←本申込書とデータをメール添付にてお送りください		

### 広告原稿はこちらにご記入ください

上記、標準パターンで申し込む場合は、  
 右枠内に原稿をご記入ください。

連名、本店/支店、Web、ロゴ使用等、  
 独自デザインをご希望の場合、  
 完全版下データをご支給ください。  
 (PDFデータをお願いします)

社名	_____
肩書き・氏名	_____
住所	〒 _____
TEL	_____
FAX	_____

【申込み先】 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 名刺広告係 (酒井)

〒 103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 tel.03-3667-2271 fax.03-3661-9006

※版下データはメール添付にて edit@jagra.or.jp 宛お送りください



# 未来予測の精度を高め、印刷業界で生き残る (前編)

——全国協議会・発表事例から①

(株)プリプレス・センター 代表取締役 藤田 靖



先日のジャグラー全国協議会において、「地域活性化のビジネスモデル」をテーマとした事例発表が行われました。参加者より「大変参考になった」と好評だった各社の発表内容を、本誌『グラフィックサービス』では数回にわたって紹介していきます。なお、本稿はダイジェスト版としての紹介となりますが、ジャグラー BB ではほぼ全編を近日公開しますので、そちらも合わせてご視聴ください。

×

## 世の中が急激に、そして過去にない動きで変化している

北海道支部、プリプレス・センターの藤田です。6月の文化興北海道大会には全国から多数ご参加いただきましたが、私はゴルフの担当で、道中、男バスガイドとして当地の業界事情などをお話しさせていただいたところ、それを聞いた中村会長より「貴方の話を皆に聞かせたい」との依頼があり、本日の講演となった次第です。本日のテーマは「未来予測の精度を高め、印刷業界で生き残る」ということで、私が日本だけでなく海外で見聞きしたことも含めて、日頃感じていることをお話しさせていただきます。

最初に簡単に自己紹介をさせていただきますと、私自身は印刷会社の二代目とか、そういう立場ではなく、30年前、26歳のときに印刷を起業した創業者です。大学卒業後、大阪の文具メーカーに4年勤めていましたが、ものづくりをしたいという思いが強く、起業した次第です。もちろん、当初は印刷機など買うお金もありませんから、いわゆるブローカーから始めて今日に至っております。

さて本題に入ります。最初に伝えたいことは、「世の中が急激に、そして過去にない動きで変化している」ということです。この意味するところを理解しなければ、印刷業は道を誤ると思っています。次頁の図は、今年1月に日本製紙連合会が発表した紙のマーケットの需給予測です。左

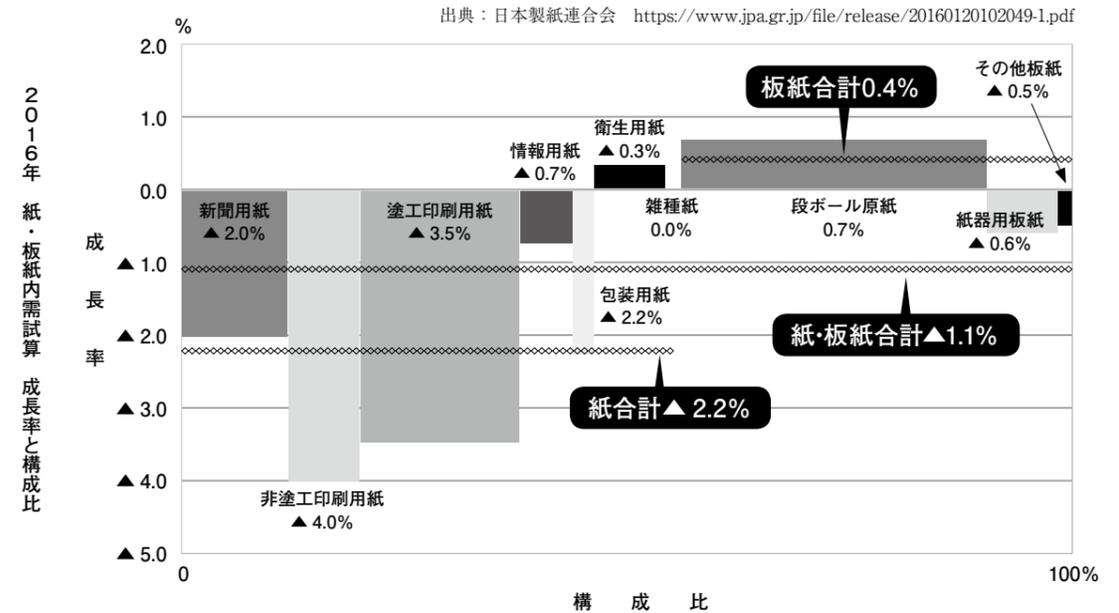
半分が薄紙、右半分がパッケージなどの厚紙・板紙です。ご覧になってわかるとおり厚紙・板紙の予想は悪くありません。それに対して薄紙は3～4%のマイナス成長と予測されています。つまり我々の売上げも確実に減少するということです。毎年4%ずつ売上げが減少していったら10年後にどれだけ減りますか。半減どころではなく、会社が立ち行かなくなるといえることですね。そして、この傾向は避けて通れないということです。絶対避けて通れません。

同じく製紙連合会の出荷額の実績推移と予測の統計資料では、薄紙は7年間で1858万トンが1535万トンと83%に減ってしまいました。しかし厚紙は6年間で1105万トンが1152万トンと104.3%に拡大しています。つまり、あと数年すると薄紙の市場は厚紙に抜かれてしまいます。それくらい、今、マーケットは激変しているんですね。

マーケットが変化するだけでなく、驚くことが起きます。70年代にアナログ製版とオフセット印刷が普及して、昨今ではデジタル製版とUVオフセット印刷がトレンドですけど、20年後はオフセット印刷はもうありません。皆さん、UVオフセット印刷機をよく買ったがるんですが、その機械は償却を終えることなく次の機械に取って代わります。

先日、FFGSさんの足柄工場でインクジェット8色機であるJetPressを見てきましたが、これはCTP入りません。無版ですから。CTP一版、ざくっと2000円と計算しても、両面8版分の1万6000円がいりません。加えて、普通のオフセットだと版交換の時間も必要ですが、インクジェット機はそれも必要ありません。つまりトータルで2万円コストカットできるとして、1日5台で10万円、20日稼働で月200万円、年換算で2400万円。5年間で1億2000万円——つまり5年間で機械の元はすぐ取れるのです。

5年後10年後、インクジェット機の価格は1億円を切るでしょうし、性能ももっと上がっているはずですよ。そうするとオフセット機はもういらなくなりますね。



私は、FFGSさんの製品構成を見れば、印刷業界のビジネスモデルが見つかると思っています。つまり、向かうべきはパッケージ分野であり、将来、捨てるべきはオフセット印刷であり、守破離——これは日本の伝統文化の考え方ですが、守るものは「クライアントとの関係や従業員」、破るものは「設備ありきの固定概念」、離れてみるものは「冷静な将来予測」ということです。

## なぜ大量オフセット印刷が不要となるか？

ここで「なぜ大量オフセット印刷が不要となるか？」ということを考えてみましょう。もちろんこれは「人口が減る」からです。人口が減少すると3つのことが起きると、日銀札幌支店長があるセミナーで指摘していました。「都市部に集中し、その他地域の減少が著しい」「日本全体で人口が減り、経済が縮小する」「若者減少は人手不足と経済成長を阻害する」ということです。同セミナーでは1971～2011年の「道内総生産と人口推移の相関」のグラフも示されましたが、人口が減ると経済も縮小することが一目瞭然でした。つまり、地方における経済の縮小はいくら頑張っても変えられない未来予測ということですよ。当然、地域に根差している印刷産業には厳しい現実が待っているわけです。人口減少による経済縮小を補う切り札としてインバウンド需要が期待されています。訪日外国人は2000万人を突破し、2020年には4000万人を目指すとしていますから、このマーケットを狙うことは大正解だと思います。しかし、そのとき一番儲かるのはチラシではなく、リピー

ト性の高いお土産のパッケージだったりするわけです。

また、「若者の意識が変わってきた」という要因にも注目する必要があります。「子供を多く産まない」「車を買わない、乗らない」「酒を飲まない、タバコを吸わない」「本や新聞を読まない」「道外で働かない」「海外にも行かない」などの変化です。

「子供を多く産まない」ことの影響として、「一人っ子が多く、孤独になりやすい」「所得が低く、子育てが大変、共働き」「家族・親戚間の連携が少ない」などがあげられます。10年後には、コミュニケーションが苦手な人が育ちますから、皆でワイワイ、酒やマージャンはもう無理、家族での旅行も控えめとなり、車も家も買わない——これは都市部が人気なので所有するよりレンタルの方が安上がりだからです。

「車を買わない、乗らない」——車産業はGNPの20%を支えている基幹産業ですが、「車が格好いい」というのは過去の意識であり、現代の若者たちは「買うよりレンタル」です。実際、国内の新車販売台数は1980年代後半から落ちているんです。トヨタなどが過去最大益とか出しているのは海外で儲けているからです。こういった状況での10年後は、「中古車が増え新車が減っていく」「乗る人が減るので中古車が余る」「中古車が白タクなどで地域の足となる」「タクシー以外の乗り物としての様々な価値を認め、新しいビジネスが育つ」ということになるでしょう。タクシー以外の新しいビジネスとして世界ではUBER(ウーバー)が有名ですが、一般人のドライバーをネットで呼び出すというビジネスモデルを国交省は白タクだとし

【講師：藤田氏プロフィール】北海道出身の55歳。札幌開成高校、立命館大学卒業後、大阪の文房具メーカーのクツワ(株)に就職し、4年目の1988年に札幌にて独立起業。現在、国内グループ4社(株)プリプレス・センター、(株)東京紙芸社、(株)クラフト、(株)DMC)、海外2社(台湾、フィリピン)の代表。全国印刷緑友会(当時1200社加盟)元会長(2005～2007)。

で現在認めていません。しかし先日北海道が台風被害にあって鉄道が利用不能になったとき、バスだけでは全く需要に追い付かない状況に陥りました。こんな時、UBERのようなサービスが利用できたらなあと感じるわけです。

「本や新聞を読まない」ということですが、「活字離れ」「文字や写真で感動する機会が減る」「折り込みチラシが大幅に減少」といった影響が出ています。新聞はもはや50%の世帯が取らなくなっており、雑誌の出荷額も減少に次ぐ減少。元気がいいのはネットの広告出荷額だけです。

## 印刷業はどう変化していくか？

このような状況の中、印刷業はどう変化していくかという、「製品やサービス分野」では、①新聞折り込みチラシは無くなる、②雑誌・マンガ・教科書などは半減する、③大量印刷は激減する、④フリーペーパーも微減かも、⑤パッケージ・シール印刷は微増する、⑥英語などグローバルに対応した印刷物は増える、⑦デジタルコンテンツのビジネスがさらに加速する、と考えられます。

また、「設備」面に関していうと、①大型オフセット印刷機メーカーは世界的に減少、②小型・少部数型設備が増

える、③ゴージャスな仕上げの付加価値機器が増える、④デジタル対応機がほとんど、⑤Webをからめた設備が増える、と考えられます。

近年のオンデマンド機は厚紙対応が当たり前になってきました。しかし、抜きや貼りはどうするのか。今年のdrupaは抜きのデジタル化がブレイクした印象でした。レーザー利用で1枚から抜いていました。また、ミマキエンジニアリング (<http://japan.mimaki.com/>) の機械などは100～150万円で買えますから、そういったものを設備して、厚紙市場に対応していくことも重要ではないでしょうか。

以上のことを踏まえて、ちょっと辛口に「印刷業の10年後」をまとめると、①会社数は減少し、残った印刷会社1社当たりの従業員は増える、②オフセット印刷は衰退する、③主流はデジタル機で、技術よりも生産性や人材確保とWeb活用が重要、ということになるでしょう。これらを実現するために、M&Aによる会社同士の合併・系列化は増える予想されます。以上のことは米国の市場予測でも示されていることで、これまでも米国の後追いをしてきた我が国の印刷業の経緯から、正しい指摘だと思われま

(次号につづく / 文責：編集部)

# Column

## “売る力”身につけ、シャワーヘッドを売りまくる

e-中小企業ネットマガジンVol.745より転載

**中** 小企業の製品が売れない一番の理由は、売る場所をつくれぬ、売るステージをつくるのが苦手な点にある。節水シャワーヘッドなどを製造販売する田中金属製作所（岐阜県山守市）の田中和広社長は、自身の体験に基づき、売ることの難しさをそう説明する。そんな中小企業の典型であった同社が、今では「売る場所を選んでいる」と言えるまでに様変わり。そこには「売れる製品」の開発と、「売る力」の獲得—の二つがあり、二つが掛け合わされたシナジー（相乗）効果が、同社に劇的な変化をもたらした。

**同** 社の前身は1965年（昭和40年）、田中社長の父親が旋盤1台で興した田中鉄工所で、1994年（平成6年）に現行の田中金属製作所として再発足する。同社の所在地、岐阜・山守は水栓バルブ発祥の地として知られ、多くの関連業者が集積した。同社も水栓部品を製造する下請け業務に励んだが、水栓業界が住宅着工件数の落ち込みや競争激化で低迷する中、脱下請けを志向し、試行錯誤を経て自社製品のシャワーヘッドにたどり着く。

**節** 水効果は最大50%、しかも生成する超微細な気泡（直径1万分の1mm）が、洗浄、保湿、温浴をはじめとするさまざまな効用・作用を及ぼし、ユーザーの美容と健康を増進する。こうした“スグレモノ”のシャワーヘッドを、廃業した水栓メーカーの技術者を迎え入れるなどで開発した。その性能が評価され、今では、一般家庭はもちろん、ホテルなど業務用

としても広く普及している同社製品だが、発売当初は売り場をつくれず、売れない日々が続いた。

**人** との出会い、つながりがすべて」。田中社長は、社員30人規模にまで会社が成長・発展した最大の要因として「人」を挙げる。その筆頭が“完売王”の異名を持つ実演販売のプロだ。「誰も売ってくれないなら自分で売るしかない」（田中社長）と完売王に弟子入りし、実演販売のワザを磨く。そのワザを、知り合いの大手ホームセンターのバイヤーの縁で、都内ホームセンターで実践する機会を得る。「毎週、金曜の夜に岐阜から出てきて、日曜の夜に戻る生活を続けた」（同）。その努力が実り完売王をしのぐほどの腕前になると、テレビ出演の依頼が舞い込む。テレビの関係で今度は“ブランドの達人”と知り合い、テレビ効果&ブランディングの威力で「成長というより膨張」（同）の勢いを示し今日に至る。

**実** 演販売のワザは社員にも伝授され、手分けして首都圏をはじめとする各地で実践中。そうした“売る力”をさらに生かすべく、大都市圏の販路開拓に悩む全国中小企業の営業支援事業にも乗り出した。「お客に100点の満足を与えるのは当然のこと。満足を上回る120点、130点をつけてもらい、凄いなと感動してもらおうのが商売です」と、商売＝感動を説く田中社長は「売ること自体が遊び。面白くなければ続かない」とも話す。



# JaGra Contest InDesign

特別企画：ジャグラコンテスト第2回InDesign

## 第1次審査課題&採点レポート大公開!

DTPのオペレーション技能を競う「ジャグラコンテスト第2回 InDesign」。第1次審査にはジャグラ会員企業から214名のオペレーターが参加し、ファイナリスト10名による第2次の実技審査を経て、第2代 InDesign マイスターが誕生しました。今回は、第1次審査課題の内容と採点レポートを公開・解説します。



ジャグラBBでも解説番組を放映中!  
[http://www.jagrabb.net/contents\\_list.aspx?c=3&sc=8](http://www.jagrabb.net/contents_list.aspx?c=3&sc=8)

### 第1次審査課題内容と採点項目

コンテスト第2回では、5種類の印刷物制作を想定した課題を出題し、それぞれの課題において、InDesign機能の知識、操作スキル、運用スキル、印刷知識を問う内容としました。各問の採点基準等内容詳細は、コンテスト特設サイト「第1次審査概況」に掲載しています。

### 第1次審査採点におけるスタンス

採点にあたっては、課題制作担当者(5名)が担当し、参加者個人を特定した採点がおこなわれないよう、また、採点者ごとに加点の偏りが生じないように配慮しました。

### 第1次審査課題完成例



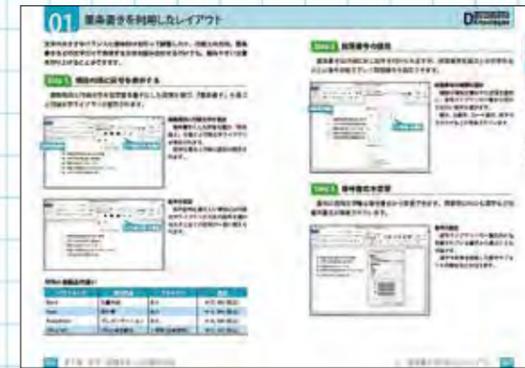
▲No.1：縦組み小冊子制作問題 (一部)

### お知らせ

受験者を対象に、第1次審査課題の模範解答データを11月下旬からWebで公開する予定です。詳細はコンテスト特設サイトをご覧ください。 <http://jagra-contest.com/>

さらに、アプリケーションバージョンやフォント環境によって採点結果に差が生じないように、InDesign データとPDF 出力結果両方を採点するとともに、工夫した点などを受験者が自由書式でPRできる「コンセプト文」を各課題の提出物として定め、コンセプト文の内容を十分考慮した上で採点に臨みました。

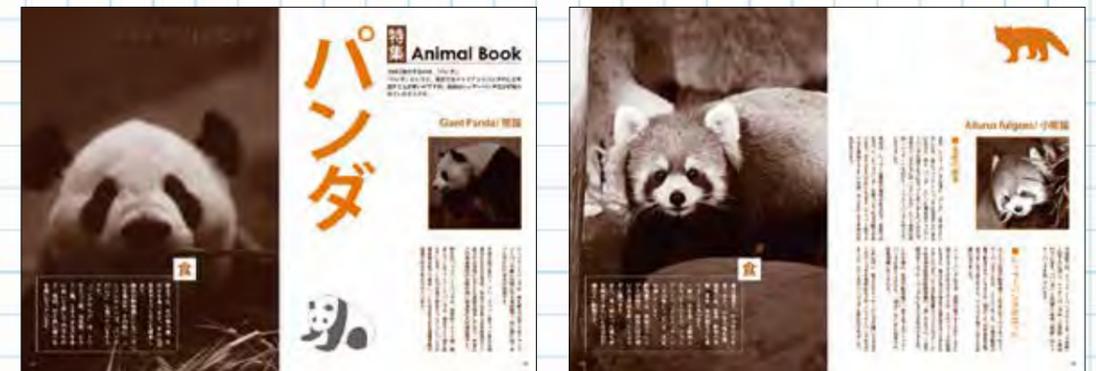
なお、課題別提出数を集計したところ、オーソドックスな横組みマニュアル制作問題の提出率ももっとも高く、応用機能が問われた星占いデータチェック問題や2色刷りデータチェックの問題は、それに比べて提出率が低い結果となりました。



▲No.2：横組みマニュアル制作問題



▲No.3：リーフレット制作問題



▲No.4：2色刷りデータチェック・修正問題

順位	星座	誕生日	運勢
7	おひつじ座	3/21 ~ 4/19	新しい出会いがあります。
2	おうし座	4/20 ~ 5/20	気分転換をしましょう。
9	ふたご座	5/21 ~ 6/21	あいさつを大切に。
4	かに座	6/22 ~ 7/22	失敗してもあきらめないで!
5	しし座	7/23 ~ 8/22	身のまわりを整頓しましょう。
6	おとめ座	8/23 ~ 9/22	飲み過ぎに注意!
12	てんびん座	9/23 ~ 10/23	ひとつひとつ前向きに!
8	さそり座	10/24 ~ 11/21	昔の友達と連絡を。
10	いて座	11/22 ~ 12/21	何をやっても絶対調!
11	みずがめ座	12/22 ~ 1/19	髪を切りましょう。
3	みずがめ座	1/20 ~ 2/18	風邪に気を付けましょう。
3	うお座	2/19 ~ 3/20	良い知らせがあります。

▲No.5：星占い表のデータチェック・修正問題 (一部)

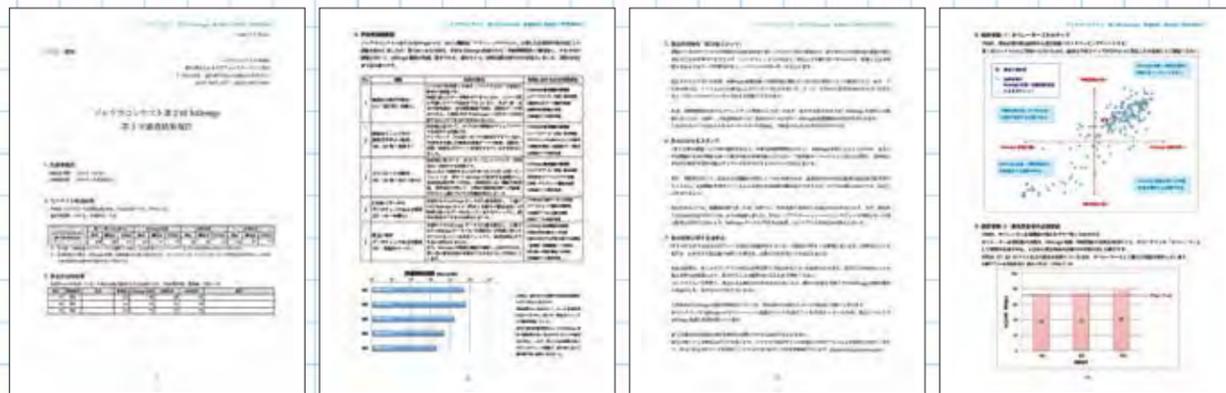
## 応募者へのフィードバック資料

第1次審査課題の採点結果のフィードバックとして、受験者が所属する企業の管理者・経営者向け資料と、受験者本人向けの資料の2種類を返却しました。

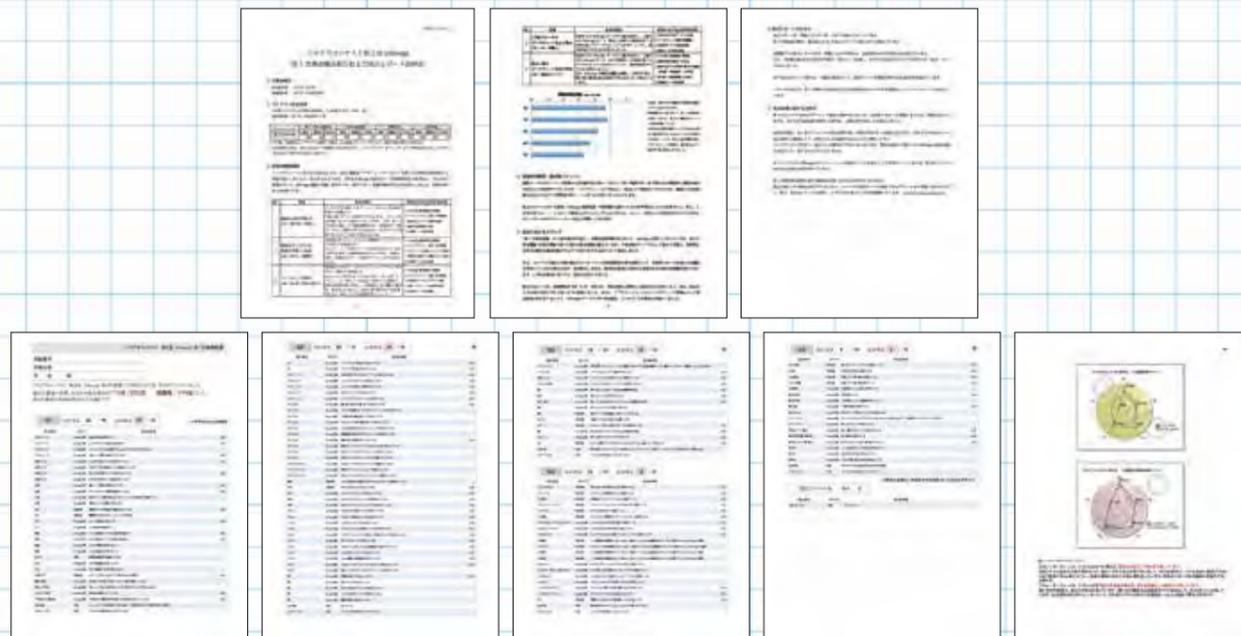
管理者・経営者向け資料には、企業からの全受験者順位表をはじめ、各企業に向けた採点者からの評価コメント、技能レベルをマッピングしたポジショニングマップなどの分析結果、必須技能の習得度を示すグラフを提供。受験者向け資料には、コンテスト概況報告書とともに、総得点と順位、課題の詳細採点項目と採点基準値、スキルを視覚化したレーダーチャートを掲載した採点レポートを個人別に返却しました。

今回より、オペレーターの技能習熟度を測る指標として、印刷業において必須となる機能を習得しているかを測るための「必須項目」を定め、総合採点結果とは別に必須項目のみの採点結果欄を設けました。これは、ジャグラコンテストの「競技」としての点数・順位とは別の観点で、オペレーターのスキルが及第点に達しているかどうかを見極めるために設定した項目です。順位に関係なく、必須項目のうち80%以上を満たしている場合は合格としました。

採点項目のうち、どの採点項目が必須項目に該当するかは、受験者向け資料の各問題ごとのレポートに記載しています。また、レポート巻末には、必須項目のみのスキルを視覚化したレーダーチャートを添付しています。



▲第1次審査 管理者・経営者向け採点レポート



▲第1次審査 受験者向け採点レポート

# ジャグラBB HOT NEWS

おすすめ番組・最新情報をお届け!

## 2017年4月ジャグラBBはリニューアルします!

スマホ・タブレット対応

理解度チェック試験機能

動画倍速再生機能

2006年より運営しております印刷業のためのインターネット放送「ジャグラBB」は、今年で10周年を迎えました。そして2017年4月、ジャグラBBは新たなステージへ進むべく、サービスを全面リニューアルします! 特に要望の多かったスマートフォン・タブレット対応、理解度確認のための試験機能、忙しい中でも視聴できる動画の倍速再生機能の実装などを予定しています。これまで以上にジャグラBBをご活用いただき、自社従業員への教育ツールとして、そして次期経営者を育成するための一つのツールとしてぜひともご利用くださいませ。(ジャグラ理事/ジャグラBB企画部会長 原田大輔)



### 今月のおすすめ番組 6選

▶最新情報はWebでチェック! <http://www.jagrabb.net>



#### 新規獲得作戦会議①ヤフーのネット広告を使った新規開拓

東京グラフィックス商売繁盛セミナー第1弾。(有)ドゥ・プラン 笹岡誠氏によるヤフー広告活用事例紹介です。ヤフー広告の特長や設定の紹介、ネット広告を有効活用するためのポイントを解説します。(時間:14分/パスワード要)



#### 新規獲得作戦会議②入札制度の戦略的な活用

東京グラフィックス商売繁盛セミナー第2弾。(株)研美社 彼谷佳彦氏による電子入札制度活用事例紹介です。入札情報サイトの紹介、入札に取り組むことによってもたらされるメリットを解説します。(時間:15分/パスワード要)



#### 新規獲得作戦会議③Webサイト、SNS、YouTubeなどを駆使した「BtoC」の構築

東京グラフィックス商売繁盛セミナー第3弾。(株)緑陽社 武川優氏によるTwitterと動画の活用事例紹介です。同人誌印刷を中心に業務展開する同社の、若者をターゲットとした特徴的な取り組みをご紹介します。(時間:13分/パスワード要)



#### 新規獲得作戦会議④異業種交流をステップにした人脈拡大と新事業展開

東京グラフィックス商売繁盛セミナー第4弾。(株)アイト 谷口美保氏による異業種交流事例紹介です。早朝に開催される異業種交流会「朝会」への参加でもたらされた売上増・業務拡大などの効果をお話します。(時間:13分/パスワード要)



#### 印刷業界健康セミナー「歩き方と座り姿勢」(全4巻)

デスクワーカー必見! 人とチャンスを引き寄せる良い姿勢、颯爽とした歩き方を身につけませんか? 姿勢が良いと心や印象、身体にどんな良い影響があるかをワークで体感しすっきり元気になりましょう。(時間:各10~15分/パスワード1巻のみ不要)



#### 第59回ジャグラ文化典岩手大会PR映像「おでんせ、イーハトーブ岩手へ」

第59回ジャグラ文化典岩手大会実行委員会制作のPRムービーです。東日本大震災から5年、これまでのご支援に対する感謝の意を示し、復興の軌跡を表現しました。(時間:1分/パスワード不要)

# JaGra News

## 業・界・の・動・き

ジャグラ関連 | 日印産連 | 行政情報 | 印刷業界全般 etc.

### 日本自費出版ネットワーク

#### 10.8 日本自費出版フェスティバルを開催

日本自費出版文化賞の表彰式も同時開催

ジャグラ会員の有志が主要役員・メンバーとなって構成している日本自費出版ネットワーク（中山千夏代表理事）が、10月8日、東京・アルカディア市ヶ谷にて日本自費出版フェスティバルと第19回日本自費出版文化賞の表彰式を開催しました。表彰式にはジャグラより中村会長のほか、ジャグラ全国協議会が10月7～8日に開催されていたこともあり、たくさんの役員・支部長も参加して受賞者をお祝いしました。

×

#### フェスティバル&授賞式

当日は日本自費出版フェスティバルと銘打って、12時30分から13時30分まで、日本自費出版文化賞の歴代入賞作品が展示されました。

13時30分からは記念式典として、第19回日本自費出版文化賞・表彰式が行われ、冒頭、主催者代表として中村耀ジャグラ会長、後援団体代表として朝日新聞社 CSR 推進部次長の倉持裕和氏、協賛会社代表として富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社執行役員・東京支社長の河合久仁浩氏が、それぞれ挨拶を行いました。

続いて自費出版アドバイザーの認定書授与式が行われ、今回新たに認定された5名の方々に自費出版ネットワークの中山千夏代表理事より認定証が授与されました。

メイン行事の表彰式では、はじめに最終審査委員会を代表して中山代表理事より挨拶があり、審査の感想や各入賞作品に対する講評、同文化賞実施の意義を述べるとともに入選・入賞者にお祝いの言葉を贈りました。また、秋林・藤野・佐藤・成田の各審査委員からも、それぞれ講評が述べられました。

表彰式では最初に中村耀会長より、この日出席した入選者の方々ひとりずつに表彰状が手渡されました。続く入賞作品の表彰では、特別賞として富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ・ショーワ・リョービ MHI グラフィックテクノロジー・モリサワ・渋谷文泉閣の各協賛会社から、部門賞については最終選考委員より表彰状が各表彰者に贈られました。特別賞・部門賞受賞作品は以下のとおりです。



表彰者の皆さんと記念撮影  
左から2人目に中村会長、その右隣に中山代表理事

## 下請けの確かな技術に見合った対価

～11月は下請取引適正化推進月間です～

公正取引委員会  
<http://www.jftc.go.jp/>

中小企業庁  
<http://www.chusho.meti.go.jp/>

#### ■特別賞

原画・文 / 緒方常雄、解説 / 小橋靖 『鳴門塩田絵巻』

渡辺正司 『霧に隠れた里御嵩のキリシタン』

いちのせまりえ 『詩集 くちびるのかたち』

奥田謙造 『戦後アメリカの対日政策と日本の技術再興』

—日本のテレビ放送—

工藤洋三 『日本の都市を焼き尽くせ!』

村上かつみ 『愛蘭土ほろ酔いバブ紀行』

#### ■各部門賞

朝倉克己 『近江絹糸「人権争議」はなぜ起きたか、近江絹糸「人権争議」の真実』

宮田固 『カミさんと走った 500 日世界自転車の旅』

瀬戸みゆう 『棚の上のポストンバッグ』

たなか牧子 『鎌倉染色彩時記』

益岡菜穂 『益岡菜穂句集 汽水』

門松経久 『食と農の原点を問う』

妹尾健太郎 『健太郎の遊び心』

—オレ・俺・おれのモノクロ写真集—

記念写真撮影後、恒例となった特別賞・部門賞入賞者の方々によるスピーチがあり、受賞作品の紹介プロジェクト映像を背景に、執筆者ならではの熱い思いがこもった涙あり笑いありのお話が続きました。

表彰式の後には記念パーティが開催され、執筆者と出版を支えたジャグラ会員企業、そして審査委員の皆さんによる自費出版談義が、会場のあちこちで繰り広げられました。

(原稿提供：日本自費出版ネットワーク)

詳細は日本自費出版ネットワークの HP でご覧下さい

<http://www.jsjapan.net/shikiten-19.html>

入賞者の楽しいスピーチ動画もご覧いただけます

<http://www.jsjapan.net/js-vreport.html>



左から、歴代入賞作品の展示風景、冒頭挨拶する中山代表理事、記念パーティーの様

月刊「グラフィックサービス」780号  
No.780  
2016  
S11

#### 月刊「グラフィックサービス」780号

■発行日 平成28年11月10日（毎月1回）  
■発行人 中村 耀  
■編集人 早坂 淳  
■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称 ジャグラ  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16  
TEL 03-3667-2271  
FAX 03-3661-9006  
WEB <http://www.jagra.or.jp/>

#### ■編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎原稿 / 編集 / 校正  
沖 敬三 守田 輝夫 並木 清乃 長島 安雄 酒井 玲子  
阿部奈津子 今田 豪 (以上、ジャグラ事務局)  
斎藤 成 (東グラ/広報委員)  
藤尾 泰一 (南インフォ・ディー/広報委員) 日経印刷機 (校正のみ)

◎組版 / デザイン  
(南)インフォ・ディー  
組 版 = Adobe Creative Suite 6 フォント = モリサワ OTF ほか

◎印刷  
日経印刷機 (東京・千代田支部)  
RIP = 大日本スクリーン Trueflow  
CTP = 富士フィルム XP-1310R 東レ TWL-1160F  
刷 版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX

印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P SORD  
インキ = DIC

◎用紙  
三菱ニューVマット FSC®-MX 菊判 62.5kg

※本誌は FSC® 森林認証紙 (管理された森林の木から作られた紙) とベジタブルインキ (環境配慮型インキ) を用いて、環境に配慮した印刷工場で生産されています。 <http://www.nik-prt.co.jp/>

#### 編集後記

本号で全国協議会における中村会長の所信表明を掲載しましたが、改めて文字に起こしてみると「強いジャグラ」にかかる会長の思いが伝わってきます。その思いを実現する一方策を探るべく、全国協議会では支部長・地協会長・理事によるグループディスカッションを実施しましたが、その中で皆さまの期待するものが見えてきた気がします。大きくは「ウェブの活用」「情報発信の充実」「青年部である SPACE-21 への期待」といったものが挙げられるでしょう。これらについては、11月に開催される、これも中村体制の象徴となっている「運営基盤戦略会議」にて検討されることになります。皆さまの真剣な議論の結果をどのように具現化していくか、課題はありますし、時間もかかると思いますが、中村体制の中で実現することを期待していきたく思います。(T.M)

# 新 知 孔 温

懐かしき謄写印刷とその魅力  
—— 今こそ先達の精神を学ぶとき



ジャグラ山形県支部長（中央印刷株）  
山形謄写印刷資料館 館長

後藤 卓也

## 第11回：ジャグラ草創期 ・謄写印刷全盛期の名人たち

ジャグラ本部に残されている最も古い会員名簿は「軽印連」時代の1963年（昭和38）のもので、当時は筆耕による謄写印刷からタイプ印刷に移る頃で、組合員はタイプ時代の到来に対し、必死に取り組んでいたと思います。1963年版名簿での会長を始めとする役員は以下の方々です。

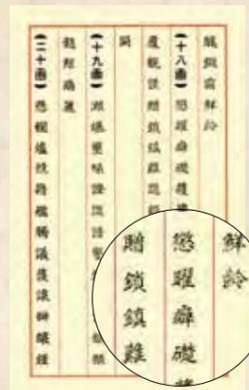
会長：櫻井文雄（東京）、副会長：小西米作（北北海道）、金森宗芳（東京）、岡本万利（愛知）、前田繁治（大阪）、専務理事：遠藤昭三（東京）、常任理事：14名、会計監査：3名、顧問：佐藤齊一、幅弓之助、丹羽善次、若山八十氏、草間京平、友野康夫、相談役：米原勝美、今井正作、植本十一、竹内三二郎、江曾鶴一、芦田寶、関柏三郎、大森義雄、事務局長：川口勝治

顧問として以前の回に取り上げた草間京平や若山八十氏の名前も見え、筆耕による謄写印刷名人たちもその頃はまだ活躍していました。今回は「ジャグラ草創期・謄写印刷全盛期の名人たち」と題し、昭和30年代から昭和後期にかけて活躍した全国の謄写印刷名人を取り上げます。

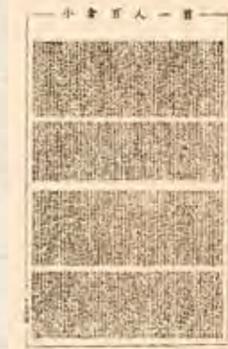
**最**初に紹介するのは、北海道岩見沢市で「白楊社」を戦前に創業し、1955年（昭和30）の組合設立時から64年（昭和39）までの9年間、副会長を務めた小西米作です。小西は組合設立に尽力し、残された作品も素晴らしい、草創期の功労者でもあります。今では、全国各地から半日以内で北海道に行けるくらい近くなりましたが、当時は北海道岩見沢から各種大会や東京での会議に参加するのは大変だったと思います。前回取り上げた山形県の鈴木藤吉とも交流があったようで、小西が戦前に制作したレストランのチラシや戦前戦後の年賀状等が、鈴木のコレクションに数点保存されています。



■小西米作制作  
左 戦前のチラシ  
右 昭和27年の年賀状



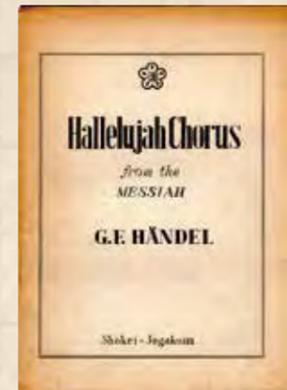
■友野康夫制作  
左)「孔版楷体書鑑」箱  
右) 同本文 (円内拡大図)  
下) 名刺2/3大に製版した「百人一首筆耕印刷」(円内拡大図)



■友野康夫制作  
左)「孔版楷体書鑑」箱  
右) 同本文 (円内拡大図)  
下) 名刺2/3大に製版した「百人一首筆耕印刷」(円内拡大図)



■植本十一制作  
左)「花咲く言葉」 ※挿絵製版は草間京平下) 同本文 (円内拡大図)  
右) 昭和堂月報72号「楽譜印刷の要領」



■佐々木勝喜 (円内写真) 制作  
上)「潮」  
下)「ハレルヤコーラス」表紙&本文

**次**に紹介するのは草間・若山らとともに顧問を務めていた友野康夫です。友野は美しい手書き書体の創造を戦前から探究し、教則本を何冊も著しています。その集大成とも言うべきものが、1969年（昭和44）に友野康夫孔版50周年刊行会が発行した「孔版楷体書鑑」です。本文の印刷はオフセットですが、印刷原版は手書きの謄写印刷であり、その書体の美しさは人間業を超越した、手書きとは信じがたい精巧さです。本の帯に当時の芦田寶日軽印会長が推薦文を書き、筆者の父・後藤義樹も所有していたくらいですから、多くの組合員が購入・所有していたのではないかと思います。友野は戦前から肉眼では見えにくい小さい文字で百人一首を謄写印刷で筆耕・印刷するのが得意で、1933年（昭和8）頃、日本謄写芸術院から頼まれて、名刺3分の2大の紙に百人一首の和歌全百首を原寸大で筆耕・印刷した神業的作品が残っています。

**ま**た、第2回で紹介しました1962年（昭和37）から1963年（昭和38）にかけて軽印連会長を務めた植本十一（浩嗣）は、代表作「花咲く言葉」をはじめとする謄写印刷作品を多く制作し、特に楽譜の製版印刷が得意で、各種講習会で講師を務め、「昭和堂月報」にも指導記事を第72～76号まで5回にわたって掲載しています。

**最**後に取り上げるのは、元宮城県支部会員の佐々木勝喜です。佐々木は1929年（昭和4）に宮城県大崎市に生まれ、1952年（昭和27）、公共職業補導所卒業後に謄写印刷業界に入り、その後「新生プリント」（現新生印刷）を興し、学校文集や同人雑誌・楽譜等様々な印刷物を制作しました。筆者もつい最近まで、全国大会・東北地協大会等で、小柄で常に一眼レフのカメラを持って盛んに写真を撮っていた姿を思い浮かべます。残された色刷りの印刷物や楽譜を見ると、「活版・石版印刷には負けない」意気込みが伝わる高度で緻密な作品です。2011年（平成23）3月11日の東日本大震災で社屋が被災し、そのショックと心労が重なり、残念ながらそのわずか一週間後の18日に帰らぬ人となりました。同社は別の場所で、加津子夫人を中心に社員全員により協力・復興し、現在も宮城県支部会員として活躍されています。

**そ**の他にも阿部松三郎（岩手県）、渡会光一（宮城県）、溝口政利（長野県）、岩根豊秀（滋賀県）ら、元会

員の秀作が山形謄写印刷資料館にあります。これらについては、いつか機会があれば紹介させていただきます。

昭和30年代から昭和後期にかけて全国に名人たちが多数存在し、これらの先達たちが、組合草創期、謄写印刷最盛期を支えていました。現役会員では、静岡県支部前支部長の石保一さんや、奈良県支部元支部長（現ジャグラ参与）の安達等さんをはじめ、かつて謄写印刷をされていた先輩たちで今も活躍している方がおられるのは、組合の誇りといってもいいでしょう。

**さ**て、私の拙い連載を読んでいただいている全国組合員の皆さんにお願いがあります。昭和50年代以前の組合員名簿、特に1963年（昭和38）より前の、特に日謄連時代の会員名簿をお持ちの方がおられましたら、ご寄贈もしくは貸与いただけませんか。山形県支部長・後藤卓也（〒990-0051 山形市銅町1-1-5 中央印刷株、電話023-631-5533）までお送りください。貸与いただけるものはコピーしてご返却させていただきます。また、寄贈いただけるものでジャグラ本部にも無い名簿は、当方にてコピー後に本部に寄贈させていただきます。宜しくお願いいたします。

本連載の最終回となる今回は、謄写印刷の現在と、今も作品の制作や謄写印刷文化の保存・継承に尽力している人々を紹介いたします。（つづく）